

1月
2025年

165号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 報

OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555

☎ 098(832) 2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>



80 years after the war

あれから80年。

平和への願いをあらたに

こども文化学科「図画工作科教育法」の講義では
平和への願いを込めたランタンづくりを行いました。

戦後80年…

世界中の子どもたちが幸せに過ごせるように。

ここ沖縄の地から、平和を発信しつづける一年に。

沖縄大学でも様々な活動を展開していく予定です。

(7月11日)



地域見守り隊に同行

経法商学科島袋隆志先生のゼミでは、自治会長連合会、沖縄大学、那覇市(まちづくり協働推進課)の三者が連携・協働して運営する「なはユース自治大学」の企画に取り組んでいます。地域の課題について学び、実践することで、一人ひとりが幸福感を感じられる地域づくりに貢献していくことを目的とした取り組みです。前期は、那覇市の新都心、松島、古島、石嶺ハイツ自治会等の活動に参加。ワークショップやゴミ拾い、地域の高齢者の見守りボランティアに同行するなど、住みよい地域を作っていくためにどうすればよいかを多様な視点から考え、来月(2025年2月9日)には那覇市長を招いて、活動の発表や自治会長の皆様と共に考えるシンポジウムを予定しています。

一人ひとりが幸福感を感じられる地域づくりに貢献していくことを目的とした取り組みです。前期は、那覇市の新都心、松島、古島、石嶺ハイツ自治会等の活動に参加。ワークショップやゴミ拾い、地域の高齢者の見守りボランティアに同行するなど、住みよい地域を作っていくためにどうすればよいかを多様な視点から考え、来月(2025年2月9日)には那覇市長を招いて、活動の発表や自治会長の皆様と共に考えるシンポジウムを予定しています。



高齢者サロン(高齢者の集い・通いの場)

利用者と交流

福祉文化学科玉木千賀子先生のゼミ生は定期的に地域みんなでつくる健康長寿コミュニティサロン「ゆんたくばあめぐみ」(首里)の利用者と交流を行っています。人生の大先輩たちのお話しはどれも興味深く、漆芸家として首里城の復元のため尽力されてきた前田栄さんも貴重なお話しをしてくださいました。玉木ゼミでは今後、お年寄りから聞き取りを行い、それぞれのライフストーリーを本にまとめる活動に繋げていきます。

(10月10日)



車いすソフトボール体験会in沖縄

2024年10月19日(土)に沖縄市モータースポーツマルチフィールドにて「中外製薬 presents 車いすソフトボール体験会 in 沖縄」が開催され、福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻の学生が運営等のサポートを行いました。車椅子ソフトボールは、チーム内で役割分担を行うことで、障がいの有無に関わらず協力してゲームを楽しむことができるのが特徴のスポーツです。体験会では日本代表選手指導の下、車椅子操作や練習体験、ミニゲームなどが行われました。沖縄大学は、県内唯一の「パラスポーツ指導員」資格認定校として、今後も様々な競技に関わり、スポーツの魅力を広めていく活動に協力していきます。

(10月19日)

那覇市若者ミライ議会

(模擬議会)

2023年度に那覇市議会との間で結んだ包括連携協定に基づき、昨年11月9日に初めての開催となる「那覇市若者ミライ議会(模擬議会)」が那覇市議会議場で行われ、国際コミュニケーション学科の1年生約70名が参加しました。

学生らは、模擬議会の参加にあたり、那覇市議会から提案を受けたテーマ(文化・芸能/健康行政/教育行政/観光行政/住みよいまちづくり)の中から、自らが取り組みたい内容を選択し、演習講義のなかで事前学習に取り組みました。

佐久間祐太さんは、観光客増加に伴うごみ問題について、京都市が導入したスマートごみ箱(ごみ箱の内部にセンサーが取り付けられ、一定量がたまると自動で圧縮されるもの)の例を挙げ、那覇市の国際通りにスマートごみ箱を設置する提案を行いました。



(11月9日)

特集

学びを深めて 地域社会の 課題解決へ

沖縄大学では学科や各ゼミ単位で、地域の課題について学び、どのように解決策を編み出して持続可能な社会づくりに貢献していけるか、那覇にあるキャンパスの立地を活かして多方面で活動しています。



沖縄戦の記憶を教育現場で

如何に伝えるのか-戦後80年を越えて

小学校教員に求められていること-

12月7日、第9回こども文化学会が在学生や卒業生、また来年度入学予定の高校生も参加して開催されました。

琉球歴史家の賀数仁然さん、本学客員教授で琉球新報客員編集員(毎日新聞兼務)の藤原健さん、そして平和教育コーディネーターで沖縄戦跡や米軍基地に詳しい大久保謙さんに登壇いただき、平和教育の在り方についてトークセッションが行われました。

参加した学生からは「賀数さんの話を聞いて、印象に残っているのは、AI等の発達で沖縄戦の写真や映像をカラーで見ることができるようになったことにより、子供達が沖縄戦の悲惨さを身近に感じることができるようになってきているということ。今後体験者の方々から直接話を聞けることが少なくなっていく中で、写真の中の人々の人生や写真が撮影されるまでにどのようなことを目にしてきたのか、という写真の裏にある背景を伝えていくことが大切なのではないかと感じました。教師として、次は自分たちが伝える側として、二度とこのような戦争を起こさせないために後世に戦争の悲惨さを伝えていきたいです」との感想が聞かれました。

また、吉村壮明先生の「図画工作科教育法(12月5日)」授業では、平和への願いを込めた、ランタンづくりが行われました。学生たちは和紙を使って自分が考える『平和』をカタチ作っていき、地球をイメージしたものや沖縄を現したものを

防災食レシピを考案!

(10月9日)

管理栄養学科國仲小織先生のゼミでは、2023年度より防災食について取り組んでいて、災害時に温かい食事を手軽に提供できるようなレシピ考案をしています。これまでに蒸しパンやくーびいりちー、ジューシー、ミネストローネなど手軽にできるレシピを考えてきました。

國仲先生が担当した災害に備える重要性について考える講義では、ゼミ生たちが100食のジューシーおにぎりを作り受講生に配布したり、沖大祭や防災イベントでは防災食を広める活動を行いました。今後、國仲ゼミでは考案したレシピをまとめた防災食カレンダーを制作予定で、ゼミ生たちは「各地で地震や災害が広がっているのでアレルギー対応の災害食のレシピを増やしていきたい」と話していました。



ど、素敵な作品ができあがりました。制作した学生からは「私たちは社会のために何ができるのか、平和な世界を築いていくためにどうしていくべきなのかを、ぼんやりと考えたり、みんなで話すことがあります。そんな中、今回ランタンで「平和への祈り」を目に見える作品として作ることで、ぼんやりしたものが具体化されたような気がして感慨深いものがありました。特に私たちは、未来を担うこどもたちの育成に携わる小学校教諭を目指しているため、「平和」を繋いでいくために、より一層考えて、児童への様々なアプローチを模索していく必要があると考えます」と感想を話してくれました。

吉川麻衣子教授が沖縄研究奨励賞受賞!

福祉文化学科 吉川 麻衣子 教授

YOSHIKAWA Maiko

第46回沖縄研究奨励賞・社会科学部門に福祉文化学科教授の吉川麻衣子先生の受賞が決まりました。

吉川先生は沖縄戦を生きぬいた人びとの体験と想いの継承に関する研究を行っていて、毎年慰霊の日には式典会場で体験者の話を聴く活動や著書・論文(沖縄戦体験者の語り合いへのプロセスにおける心理・社会的要因)執筆を手掛けてきました。吉川先生は「これまでたくさんの戦争体験者の話を聴いてきたので、その方々への感謝の気持ちでいっぱいです。語り手の声に耳をかたむけ続け論文や本にしてきたので、今後、多くの人に知っていただく機会になると嬉しいです」と喜びを語ってくれました。また、今年は戦後80年の節目にあたるので、学生と共に、平和について語りあう場づくりを企画できたらと抱負も話してくれました。





沖縄県教員採用試験合格者

☆ **こども文化学科**

☆ **30人現役合格!** ☆ ☆

経法商学科 1人現役合格!

昨年9月に発表された教員採用試験において、今年度も学生たちが成果をあげてくれました。こども文化学科では30人が現役合格を果たし（県教委28人、横浜市教委1人、神奈川県教委1人で、いずれも小学校）、また毎年採用人数が少なく難関となっている中学校（社会）においては経法商学科の1人が現役合格しています。教職インターンシップや教育実習などで実践力を身につけて試験に挑み、合格を勝ち取っている学生たちは、着実に『教職の沖大』を学校現場で浸透させてくれることでしょう。

今号では本学の教職課程について、4年間のカリキュラムや教職支援センターの支援体制を取り上げます。

幼い頃から教員という仕事に憧れ、そして一生懸命に学校現場や子どもたちに接し続ける学生たちの姿からは、沖縄の希望ある未来が見えてきます。

沖大教職の特徴

「実践が学べる 4年間のカリキュラムについて」

教職課程を履修する学生は教育現場を知る第一歩として、全学科とも1年次から観察実習を行います。観察実習では、実際に学校現場の1日を観察することで教師の立場からリアルな現場を体験できています。そして、2年次・3年次ではインターンシップ実習を行います。週一回、学校現場で先生方や児童生徒と約一年間関わるので、より実践的な力を身に付け、教育現場を常に意識することで、理論と実践を結び付けて学ぶことができます。その他、こども文化学科では学校ごっこや沖大小中学校などの取り組みを通して実践力を養っています。



沖縄大学から地域の教育を支える 教師を養成する

沖縄大学教職支援センター長 嘉数 健悟

沖縄大学の教職課程は、地域共創・未来共創の理念に基づき、地域の教育に貢献できる教師を養成することを目指しています。それは、単に教育の専門家にとどまらず、地域に根差し、子どもたちの成長を支える「地域と共に生きる教育者」の養成でもありと考えています。

教職課程のアドミッション・ポリシーでは、教育や地域に対する強い関心を持ち、子どもと関わることに意欲的な学生を求めています。これは、地域の教育課題や子どもたちが直面する現実に関わり、支える力を育むことにつながると考えています。

ディプロマ・ポリシーでは、「教育的愛情」「使命感」「責任感」を大切にしています。これらの資質は、教職に対する強い情熱や教師としての使命感を育むものであり、子ども一人ひとりに深い理解を示し、成長を支える土台になります。また、学習指導力や生徒指導力を身につけることも重視しています。教師は学びの場で子どもたちを導くだけでなく、教育の専門家として子どもたちの様々な悩みや問題に共感し、解決の手助けをすることが求められます。さらに、地域資源を活用する力も大事にしています。沖縄という地域の自然や文化を教育に活かし、子どもたちが地域とつながる学びをデザインできる力を有した教員の養成を行っています。

このように、沖縄大学の教職課程は、地域に根ざした教育者として、子どもたちと信頼関係を築き、地域社会全体を教育の場として活用できる教師の養成を目指しています。

教員採用試験を終えて



こども文化学科
4年次
金城 廉叶

学年全体の雰囲気としては例年よりはみんなが勉強に取り組み時期は遅かったと感じています。ただ、今年度から大学推薦が導入され、勉強の負担が減ったことにより余裕が出てきました。実際に勉強へ取り組んだのは、昨年の11月頃からゼミごとにモチベーションを上げてみんなで勉強に取り組む雰囲気を作ることができたと思います。仲間とは「朝9時に集合して遅刻した人は募金、集まったお金はお疲れ様会で使おう！」というルールを作りました。そのおかげで学校に来ることが楽しくなり、一次試験の勉強にしっかりと取り組むことができました。最初は数学と理科の基礎固めをしっかりと行ったほうが良いと先輩方からのアドバイスをいただいていたので最初の1カ月半程は数学と理科の基礎問題に取り組みました。また、学年全体で教えあいをしたり、点数を競って切磋琢磨したり、一緒に勉強をしてくれる仲間が多かったため、とても心強く感じました。

二次試験対策では試験の2カ月前から宮里晋先生を中心に3人の先生方に指導をしていただきました。最初は面接で聞かれる内容も分からず、模擬授業も手探りの状態でしたが先生方のアドバイスや仲間同士の意見交換を通して二次対策に取り組みることができました。

採用試験を振り返ってみて、先生方のサポートや仲間の存在がなかったら合格することは出来なかったなと感じています。また、沖縄大学では2年次の頃から本格的に講義で模擬授業を行い授業実践力を培うことができました。それらが一次試験、二次試験を通して力になりました。それ以外にも学校ごっこやオフキャン、沖大小中学校などで校外の方々に向けて授業を行うことができ行事が充実していたため、いろいろな経験をすることができました。

あらためて、採用試験をサポートしてくれた方々には本当に感謝しかありません。また、採用試験期間中は、教育について考える機会も多くもつことができ、これまでに以上に勉強について真剣に考え取り組んだ約1年間だったと思います。その中で自分自身も人として少しレベルアップすることができました。この経験を生かして自分の目指す教師像に近づけるように日々学び続けていきたいです。

「教員採用試験対策について」

沖縄県の公立学校教員採用試験は、4年次になってすぐの6月に一次試験、8月末に二次試験が行われます。一次試験対策は、学科の教員が中心となり3年次の10月頃から始まります。毎年12月頃には、合格した4年次がこれから教採に挑む3年次に向けて合格体験報告会を行い、どのような試験対策を行ったのか、アドバイスをを行う機会も設けています。一次試験は孤独な戦いだと思われがちですが、苦手なところを教えあったり、モチベーションを維持する工夫を紹介したり、一人ひとりの体験がとても参考になります。また、外部と連携して、模試や対策講座も行っています。

二次試験対策は、模擬授業や面接の練習を行います。一次試験の合格発表があった直後から、二次突破を目指し朝から晩まで練習している学生が多いです。学校現場で働く卒業生が参加していることもあり、在学生の刺激にもなっています。

栄養教諭については、沖縄県の場合、栄養職員として採用され経験を積んだ後、栄養教諭の試験に合格する必要があります。まずは栄養職員の合格を目指して、他学科同様に対策を行っています。

「就職実績について」

小学校教諭を目指すこども文化学科では、毎年安定して合格者を出すことができています。現役で合格することが出来なかったとしても、卒業後に臨時的任用職員をしながら採用試験を目指す学生も多くいます。

中学校・高校の試験は、毎年倍率が高く現役合格は難しい状況もありますが、今年は中学社会で1名の合格者を出すことが出来ました。卒業後、学校現場で働きながら採用試験の勉強をする卒業生も多く、二次対策には、教職支援センターを利用してくれています。

また、教職課程では、相手にわかりやすく説明するスキルやコミュニケーションスキルを磨く場面が多くあり、就職活動でも身に付けたスキルを活かせることができています。

「中学校・社会」で
現役合格！

経法商学科 4年次 親川 柚希



人生でトップ3に入るくらい嬉しい出来事でした。教職を履修していてよかったと思いました。夢を叶えることができました。

本格的に勉強をはじめたのは大学3年次になってからです。4年次に教育実習に行くために沖縄大学では学力試験があります。それに向けて勉強するようになりました。それまでは塾でアルバイトをしていて教養の勉強はできていたのかもしれませんが。今年度から大学推薦枠があり、この制度のおかげで1次試験は専門科目だけになったので、集中して取り組みました。中学校や高校で勉強してきたことが教員試験では活かされましたし、苦手分野はアプリを使って何度も復習しました。ひたすら過去問を解く、指導要領は書いて目で見、読んで声に出して覚えました。「沖縄大学初めての現役合格」を目標にして、それをモチベーションにして頑張りました。

授業をつくるうえで、だれも取り残さない、そんな先生になりたいです。教員の業務内容は大変だと思いますが、教育実習で出会った先生がとても生徒から信頼され、安心感を与えてくれる先生でした。生徒との付き合い方、言葉がとても優しい先生でした。そのような先生を目指したいです。

沖大の「魅力」に迫る vol.13 沖大散策

沖繩大学キャンパスにある貴重な美術品等について紹介する企画、沖大散策。今回は金城美智子さんの墨絵についてです。金城さんの絵はこれまで図書館に複製画を展示していましたが、昨年9月、新たに5点の原画を寄贈いただきました。

長年、金城さんと交流をしている地域研究所の後藤哲志さんに金城さんの絵の魅力などについて紹介してもらいます。



墨絵画家 金城 美智子氏

■略画歴

- 1946年 ● 東村生まれ
- 1984年 ● 墨絵を独学で学ぶ。
- 1985年 ● 日輝会全日本墨絵展 銀賞、日輝会国際展 入選（ウエストミンスター寺院/ロンドン）
- 1986年 ● 日輝会全日本墨絵展 大賞 全国各地で個展を開催
- 1997年 ● マルタ共和国へ移住し地中海の島々で創作（～2006年まで）マルタ共和国、中華人民共和国で個展を開催
- 2024年 ● 個展 墨絵「光と影の世界～沖繩（琉球）の島々・地中海の島々」（名護博物館）

■受贈作品

- 墨絵「光と影の世界」風景画 五点
- 一、Gozo - Island (MALTA) 1997.7 (F7.5号)
 - 二、Cappadocia (TOLKKEY) 2005.10 (F9号)
 - 三、Crete-Island (GREECE) 2001.11 (F36号)
 - 四、Chania-Crete Island (GREECE) 1999.9 (F5.5号) 三連作
 - 五、Minamidaito - Island 1996.5 (F25号)

「光と影の世界」五作品を受贈

金城美智子氏（78歳）は、沖繩の在りし日の風景を独自の手法で細密に描き出す墨絵画家です。

対象を探し求める取材の旅は、県内ほぼ余すところなく、現場にたどり着いたときにはその地の諸々と交歓し、愛で、祈ります。そうして焼き付いた体感を傍らにし、机上で遊ばせながら、一つひとつ墨筆を紙に運ぶ。影を置き、光を浮かばせ、途方もない時をかけた戯れの果てに、氏の求めた沖繩の原風景「光と影の世界」が墨絵となって現れます。

30年ほど前、沖繩大学の近隣にアトリエを構えていた氏は、沖繩の自然破壊と対峙していた環境学者の故宇井純先生と交流し、共に沖繩の行末を案じます。やがて描くべき対象を失ったと感じた氏は、新たな地を求め、地中海の神話世界、古代史の世界を巡遊する創作の旅に出

ます。沖繩と通ずるところのあるマルタ島に拠点を置き創作活動に打ち込む中で、古代エジプトで使われたパピルス紙に光と影の世界を表すという冒険的な作業に心血を注ぎます。きめの荒い黄化色のパピルス繊維に墨を微細に挿し重ねた精粗溶け合う風景画が生まれました。

10年を経て帰郷します。地中海、そしてそれまでの沖繩での創作活動に順風が吹いていたわけではありません。カウザルギーの焼くような激しい痛みとの闘いに疲れ、痛みから逃れるために墨絵の創作に集中するという過酷な営みの日常でした。地中海の後、力を使い尽くしたかのように再び絵筆を取ることもなく、この20年近くの間沈黙をされていたかのようにでした。

ところが、今年の7月に氏の個展が名護博物館で突如開催されることとなり、関係者を驚かせました。氏の墨絵に心を寄せてきた少なか

らずの県民は感嘆させられることになりました。約50点の墨絵が展示され、その中に、この数年をかけて手掛けられていたという一点が微笑んでいました。それは氏がペルシャ伝来と想起する広隆寺の弥勒

菩薩像でした。この個展をもって氏の創作活動は終着したのかもかもしれません。

今回、名護博物館で展示された作品の中から、五点が本学に寄贈されました。沖繩の南大東島の作品が一点、地中海のパピルス画

が連作を含め四点です。

氏は、「私の絵は沖繩の神々に描かされたのだから沖繩のもの、沖繩の人たちのものだから沖繩大学がこれらの墨絵で若い人たちに何を感じ取ってもらえるか、県民と何を考えていけるのか、地域に開かれた大学として沖繩大学の使命を全うする一つの道具として役立ててもらえたら」と願っておられます。

公共の領域において寄付を受けることは、

その受け手が支持や信任を得ていることの一つの証左といえます。寄付文化の基底には、地域社会に主体的に関わる市民性と社会的組織とのやりとりがあります。

憲章を世に掲げる大学は、学内外の個人や地域団体から様々な支援をいただきながら力をつけ、憲章に込められた実質を追求することができます。寄付だけでなく、ひと肌脱いで協力しようという有形・無形の支援があります。

沖繩大学は、「日本復帰」時の自主存続に始まる15年もの苦闘の時期に県内外の多くの支援によって生かされた歴史を持つ大学です。だからこそ、早くから地域に開かれた大学を標榜し「地域共創」を憲章に掲げ、教育、研究、地域貢献にこの横串を通すよう取り組んできました。

そのようなことに思いを馳せつつ、この度の絵画のご寄贈について報告します。（後藤哲志）



▲ 受贈作品 Minamidaito - Island 1996.5 (F25号)

第4回

わたしの先生、 紹介します!

今回は福祉文化学科の中山健二郎先生について、ゼミ生の津曲颯斗さんに紹介してもらいます。



中山 健二郎 先生
出身:千葉県四街道市

福祉文化学科3年次
津曲 颯斗 さん

略歴

学位：立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士後期課程修了博士（スポーツウェルネス学）
研究分野：スポーツ社会学
今一番欲しいもの：威厳

―大学時代について―

中山先生は、保健・体育の教員になるために大学に進学、大学1・2年次の頃は、学業よりも学生団体のイベントに力を入れていたタイプで大学生生活を謳歌していたそうです。高校時代は野球部に所属していたことから、メディアや周りの大人達に美談のように描かれる高校野球に疑問を抱いていたそうで、大学でスポーツ社会学の授業を受け「俺が学ぶのはこれだ!!」とビビッと感じその後スポーツ社会学を専門に学ぶために大学院へ進みました。

と、「学ぶのも面白いな!」と思ってもらえるように日々、中山先生は頑張っているそうです。

―大学教員になったきっかけ―

中山先生は大学院卒業後、スポーツ分野で仕事にするなら広告について理解することが重要と考え広告会社に就職したそうです。そこで働くうちに、スポーツ業界で仕事したいと志す若者を支援したいと考えるようになり、研究職に戻り大学教員になったそうです。

―研究領域について―

高校野球のリアルとイメージのギャップに違和感を抱いていた中山先生は、世の中の人が高校野球を神聖視したがる理由を知りたく、現役時代の疑問解明と自分の野球人生に決着をつけるため、大学院時代は「高校野球のメディア論」について研究を行っていたそうです。

―沖縄に来て感じていること―

沖縄に初めて来た年はコロナ禍真っ只中で学生と学外でのフィールドワークや外出の機会がなく、あまり沖縄に来た実感は無かったようですがここ2、3年で沖縄の観光地などに行くことができて、ようやく実感が出てきたと話してく

れました。沖縄の良いところやおいしいご飯屋さんなどの情報などを教えてくれるゼミ生や学生と色々な所に行くのが楽しかったです。

―私(津曲)からみた中山先生―

中山先生は沖大の先生の中でも1、2位を争うくらい学生との距離が近い先生だと思います。学生

と一緒にスポーツを楽しみ、フィールドワークに出る機会が多くあり、とても親しみやすい先生です。また、中山先生は幅広い人脈を駆使して学外の団体と連携して、学生に実践的な経験を積ませることを考え、動いてくれている先生です。学生の成長を願う学生のためにと尽力してくれている中山先生は、学生からとても信頼されています。

福祉文化学科 中山ゼミ紹介 / 5期生

中山ゼミは主にグループ研究を行っています。学内だけで学びを終わらせずに学外の団体と連携して活動し、「自分のやりたいことで社会に貢献する、社会で活動する」をモットーとした超行動・実践派ゼミです。巷では「人材紹介の中山ゼミ」と呼ばれるほど地域のスポーツに関するお困りごとを中山ゼミメンバー総出で解決しています。また、中山ゼミはメンバー同士の仲が良くプライベートでもよく集まっています、とてもアットホームなゼミです!!

グループ研究

(スポンサーチーム) 主な活動は、スポンサーの特徴の違いについて調べています。実際に個人やチームについているスポンサーの方にインタビューやアンケートを取り、「なぜ、スポンサーをすることになったのか」を明確にしていきたいと思えます。

最終的な目標は私たちのチームでスポーツイベントを主催、運営しそのイベントにスポンサーをつけることです。

(パラスポーツチーム) 沖縄県のパラスポーツチームの現状を調べています。また、地域の小学校や学内でパラスポーツの教室や体験会を実施しパラスポーツの普及を目的に活動しています。

(琉球コラソチーム) 琉球コラソンと連携し、2月に行われる琉球コラソンのホーム戦をプロデュースします。大学生や20代の観戦客を増やすためのプロモーションや試合のイベント内容をコラソンの方と一緒に作り上げています。

沖大祭

第65回

想いをひとつに！
大盛況で幕



11月3日、4日に開催された第65回沖大祭は、天気にも恵まれ、無事に終了することができました。2日間のべ2061人の皆様にご来場いただき、出店団体や学園祭実行委員の趣向を凝らした企画により、大盛況のうちに幕を閉じました。

実行委員のメンバーは数か月前から準備に励み、当日の運営や案内役をがんばっていました。



東山陽花さん(福祉文化学科2年)は、当日も開会の挨拶にはじまり、琉球芸能演奏のメンバーとして

舞台上立ち、ピンゴ大会ではMCのサポート役まで務めるなどひとりで何役も熟して、会場を盛り上げていました。2日間の学園祭の様子を写真で紹介します。



たくさんの方が参加！ピンゴ大会！



幕開けは仲村圭央さん(職員)と仲間功也さん(学生)のかぎやで風



管理栄養学科の健康測定ブース



ピンゴ大会！景品ゲット！



八重山出身の学生たちが出店！美味しい八重山そばでした！



島袋隆志ゼミはゼミ活動内容を掲示。ゲームコーナーも出店



クッキングサークル



吹奏楽部



國仲ゼミ(防災食を広めるブース)



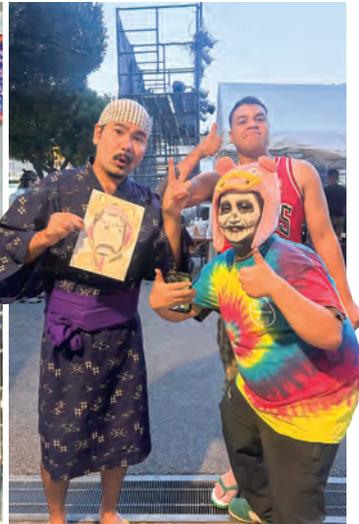
沖大祭を
ふりかえって

沖大祭実行委員長
福祉文化学科2年次

東山陽花



私が、実行委員の活動をはじめたきっかけは、友人から誘われたからです。実行委員会では『学生が主体』をモットーに話し合いを重ね、舞台構成など企画をしました。両日とも準備期間の不安や心配を忘れるほど賑わい、参加した多くの学生がキラキラし、楽しんでる様子を見てとても嬉しかったです。ゲーム大会やピンゴ大会に、多くの来場者・学生の皆さんが楽しんでる姿を見ることが出来ました。そして、きんぴらごぼうさん、きいやま商店さん、ありんくりんさん、Anyさん、為又青年会さんの5組のゲスト出演ステージ



も大いに盛り上がりを見せ、それぞれのプログラムに多くの観客が集まり、会場が笑顔と感動で溢れていました。私が、実行委員長としてやりきることが出来たのは、職員の方々の仲間が支えてくれたからです。沖大祭を開催するにあたり温かくサポートしてくださった全ての方々に感謝しています。

無事に沖大祭を終えることができほっとしています。今回の沖大祭で得た反省や思い出を大事にして、次年度に生かしたいと思います。

2025年の沖大祭も楽しみにしていってください。

地域と共に考える「防災」 沖繩大学で「防災キャンプ」を開催！

2024年12月6日（金）から翌朝にかけて、沖繩大学アネックス共創館にて、「防災キャンプ in 沖繩大学」を開催しました。本イベントは、地域の方々や教職員が集い、「災害に備える」をテーマに避難体験を行うことで、防災意識を高めることを目的としています。

2024年は日本各地で地震や台風などの自然災害が相次ぎ、災害への備えが一層重要視されています。本キャンプでは、大学が避難所になった場合の状況を想定し、参加者が必要な持ち物や準備を考えながら宿泊体験を行いました。

多彩なプログラムで学ぶ防災の知識

イベントでは、防災に関する講演や災害時調理体験試食、防災グッズ紹介など、多彩なプログラムを実施し、大学の建物内で宿泊して避難生活を疑似体験しました。翌朝にはラジオ体操や振り返りセッションを行い、防災の大切さを共有しました。

12/6

- 16:00 受付開始@アネックス共創館 2F
- 16:30 イベント開始：学長あいさつ
- 16:45 アイスブレイク
- 17:15 災害時調理体験指導（健康栄養学部・國仲小織先生、健康栄養学部の学生の皆さん）



- 17:45 防災講話「自然災害を自分事として考えよう」（経法商学部・糸数哲先生）



- 18:50 夕食（災害時調理体験試食）
- 19:30 防災ディスカッション&振り返り
- 20:30 寝床づくり、災害時持出品シェアタイム
- 21:30 就寝準備
- 22:00 消灯・就寝

12/7

- 6:30 起床、ラジオ体操・朝食（災害食糧試食）
- 7:00
- 8:00 全体振り返り、終了・解散



参加者の声

参加者からは次のような感想が寄せられました。

- ・「実際に避難生活を体験することで、自分に必要なものが分かった」
- ・「非常食が温かくて有難かった」
- ・「地域の方々と交流しながら防災について学べたことが良かった」

▶▶ 今後の展望

沖繩大学は地域と連携しながら、防災に関する取り組みをさらに推進していきます。本イベントを通じて得られた意見や経験を活かし、より実践的な防災活動を展開していく予定です。

卒業生の活躍を紹介!

あの人はいま

Q 学生時代について
お聞かせください

大学生生活はとても楽しかったです。高校時代、私は千葉の高校に通っていて、大学は沖縄に進学したいと思って沖縄大学を受験しました。母が沖縄出身でしたので、沖縄で祖母と暮らしたいなと思ってのことです。念願が叶って、沖縄大学の短期大学部英語コースに通うことになりました。

大学では、中国語の面白さに気づいて、中国語にはまっていきました。きっかけは渡邊ゆきこ先生です。先生に教えていただいたベースが今に生きています。先生の授業は固い授業ではなくて、中国語の発音を大事にした講義、正しい発音をきちんと教えてくれました。中国語への関心から中国や台湾との接点をもてる仕事に就きたいとも思うようになり、その後琉球大学法文学部の編入試験に挑戦しようと思いました。その際も中国語で受験したのですが、毎週渡邊先生が中国語の長文を読む時間を作ってくれて、試験に合格することができました。琉球大学在籍中、まだまだ勉強不足だと感じて、その後は中央大学大学院総合政策研究科に進みました。

当時の沖縄大学は、別科に通う留学生も

多くいて、交流ができるのも良かったです。学園祭とかも自由ですごく楽しくてね。公開講座も面白くて、多くの学生が受講していましたよ。妻とも沖縄大学で出会ったんですよ。

渡邊先生に良い人生にしてもらったと思っています。先生との出会いがなかったら教職の道にも就いていなかったと思います。

Q 大学院卒業後について、また現在のお仕事について教えてください

大学院卒業後は東京国際大学で事務職として就職しました。教務課や国際交流の仕事をしました。縁あって、3年前から中国語講師を務めています。好きな中国語を教えられるということはとても嬉しいです。授業では学生が楽しく学べるように、そして中国語が好きになってもらえるようにと工夫しています。今後は日中関係についても教えられるようにと幅を広げていきたいです。

Q 沖縄大学の学生へメッセージ

東京で生活していても、なにかと沖縄のこと、沖縄大学の話題は気にかけています。最近だと昨年卒業した本村杏珠さんの戦争を語り継ぐ活動等をYouTubeで見っていました。本村さんのように、沖縄を愛し、沖大生であることに誇りをもっている方は立派だと思います。

沖縄大学の良さは学生と教職員の距離がとても近いところですよ。沖縄出身の先生からは沖縄の良さを学び、県外出身の先生からは県外の良さを学び、そうやって世

◀ 2024年に発刊された瀬戸口勲さん著書



瀬戸口 勲さん

界が広がっていくそういう良さがある大学だと思います。最近も大学案内などを見ても、楽しそうな大学の魅力が伝わってきます。温かく見守る、沖大イズムにこれからも期待しています。

Q 今後の目標について

教員としては研究業績を積んでいきたいです。教育面では将来は中国語のスペシャリストを輩出したいです。

国際コミュニケーション学科
渡邊ゆきこ教授のコメント

【瀬戸口君の思い出】

瀬戸口君と出会ったのは、私がまだ沖大で非常勤講師をしている時でした。1時間目の授業でしたが、瀬戸口君がいつも前の方に座り、熱心に授業を聞いていたのを覚えています。その後、わたしが専任講師になってから、東京の大学院に進みたいと相談されたので、中国語の試験対策の指導をしました。

確かその頃、参加した中国語の学会で瀬戸口律子先生にご挨拶をいただき、瀬戸口君が琉球王朝時代の通訳(通事)研究で有名な瀬戸口先生のご子息だと知りました。

大学院を修了して東京で就職してからも瀬戸口君は毎年近況を知らせてくれ、中国語の教員として採用された際には、わざわざ沖縄まで会いに来てくれました。かれこれ30年ご縁が続く思い出深い学生です。



年頭あいさつ

OKIDAI VISION 地域がキャンパス、地域のキャンパス
2028 沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります

 学校法人沖縄大学
 理事長

佐喜真 實

明けましておめでとうございます。

本年巳年は干支にちなんで、再生と変革の年と言われます。蛇の脱皮のごとく旧態依然とした体制・制度は早々に脱ぎ捨てて、新しく活力に溢れたものにしていく必要があるでしょう。

大学もめまぐるしく変化する環境変化に対応して、大きく姿を変えるほどの改革が求められており、蝶がさなぎから変態するがごとく、メタモルフォーゼ的改革が期待されていると言えそうです。

折しも本年4月には改正私立学校法が施行されます。学校法人経営の公正性を向上させ、設置大学の教育の質保証に繋げるガバナンス改革です。今回の改正では理事会、評議員会、監事などの権限が大幅に見直されます。

本学では理事の選任機関は評議員会となり、監事も評議員会が選任するなど、学校法人役員の選・解任権限が評議員会へ付与されます。また理事10名に対して評議員は11名とコンパクトな体制となります。そして評議員構成はジェンダーにも配慮しながら、職員、同窓生、地域、保護者、学識者など本学ステークホルダーを意識したものになります。

このように本年は学校法人経営の変革の年になりますが、その根幹を為す改正私学法対応の寄付行為も、昨年に文科省の認可を受けました。また関連規程も整備を進め、本年4月の施行を待っているところです。施行後も評議員会の諮問機関の位置づけは変わりませんが機能が強化されるので、理事会と評議員会のおお一層の建設的な協働と相互牽制が求められています。

今回の改正では学校法人の代表権を理事長と代表業務執行理事となる学長が持つこととなります。学長の代表権行使は理事長権限との兼ね合いを見てとなりますが、施行後は大学と学校法人業務の一体化が進み、大学運営と法人活動がさらに機動的に行えるようになる予定です。

大学の新執行部が4月開始、学校法人の改正私学法に基づく新体制は6月後半スタートです。この新体制を活かしながら、引き続き沖縄を代表する私学づくりに邁進したいと存じます。本年も宜しくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。

私たちを取り巻く社会環境は急速に変化しています。デジタル化の進展、グローバル化の加速、持続可能な社会への転換など、現代は多様な課題に満ちています。このような時代において、大学は社会変革の中心的役割を担い、未来を切り拓く人材を育成する重要な使命があります。

近い将来、私たちの世界は現在とは全く異なる姿に変貌を遂げる可能性があります。しかし、どのような時代が訪れようと、これまで培ってきた知識と経験、そして「学び続ける力」と「問題解決能力」は、必ず大きな力となるでしょう。

今年のキーワードは「挑戦」です。新しいことへの挑戦、そして失敗を恐れずに立ち上がることは、個人の成長に不可欠な要素です。様々な機会に積極的にチャレンジし、自らの可能性を広げていくことが大切です。大学の成長にも挑戦は欠かせません。

沖縄大学は、創設以来、教育の機会均等という理念のもと、地域に根ざした教育を推進してきました。2008年の創立50周年には、地域と共に持続可能な社会を創る大学を目指し、「地域共創・未来共創の大学へ」という新たな理念を掲げました。2018年の創立60周年には、OKIDAI VISION2028「地域がキャンパス、地域のキャンパス」を10年後の未来像に定め、その実現に向けて教育、研究、そして地域貢献に取り組んでいます。

このOKIDAI VISION2028において、「新たな共創への挑戦」として公立化の検討を掲げています。公立化は、単なる大学の存続策ではなく、地域社会全体にとって意義のある戦略と考えています。この取り組みは、地域住民、自治体、そして学生が一体となり、新たな価値を創造していくための重要な一歩となるでしょう。

本学は、小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請にスピード感を持って応える大学を目指しています。「地域共創・未来共創の大学へ」という理念の実現に向けて、教職員一丸となって取り組んでまいります。

最後に、皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念いたします。本年が素晴らしい一年となりますように。


 沖縄大学 学長
 山代 寛